

## CAVOK 2015年航海日誌 NO6

(9月18日(金)Menton~10月18日(日)Saint Tropez~Vienna)

松崎義邦氏メール(10月24日)

皆様に

今年で6年目になる航海の最終レグはリビエラ海岸からコートダジュールにかけての南仏クルージングになりました。この辺りはモナコ、ニース、カンヌ、サントロペと有名な保養地がありますが、その間にも多数のマリーナと錨泊地があります。又この時期9月中旬から10月上旬にかけて、コートダジュールでは、ボートショウやクラシックボート・レガッタ等海のイベントも多くヨット乗りにとってはタイミングの良いシーズンでもありました。

マントンからは今年3回目の来艇になる平田ご夫妻が乗艇して賑やかになりました。

モナコには8年前エーゲ海でヨットに乗せて頂きお世話になった今は亡き Gerald さんの息子さん夫妻が在住しており、お食事やホームコンサートに招待して頂いたり、又彼の持っているクラシックヨット Viola がカンヌのクラシックボート・レガッタに出場したので、CAVOK5で応援をしたり、彼らのチームメンバーと一緒に宴会したりしてセーリング以外にも大変楽しい日々を過ごしました。又車を貸していただいて内陸を観光したり、美術館巡りをしたり、そしてマリーナでの生活が便利になったり大変助かりました。そんな訳で今回はマリーナに停泊している日数が多くなりセーリングより、どちらかと云うと南仏の海辺を大いに楽しんだ期間になりました。

10月になりますとお天気も変わりやすくなりますが、晴れた日の南仏の陽射しはまだ強くサントロペの海岸では日光浴を皆さん楽しんでいました。

サントロペに着いてからはドライブや海水浴を楽しみながら CAVOK5 の越冬準備をして帰国しました。

お陰様で今年も安全で楽しい航海が出来ました事をお礼申し上げます。

自宅にて

CAVOK5 松崎義邦、悦子

以下の写真を添付させていただきます。

- 1 . 中世の城 Entrevaux
- 2 . Cannes のクラシックレガッタ ( Les Regates Royales)
- 3 . Viola の帆走姿
- 4 . Viola の Kostia さん、Evon さんと 1908 年のマディラワイン
- 5 . Viola の内装
- 6 . CAVOK5 でのパーティ
- 7 . パーティの日本食
- 8 . お世話になった麻記さんと百合子さんと悦子 ( マチュ宅)
- 9 . Saint-Tropez の風景

## 2015 年 CAVOKV 航海日誌 ( 6 )

9 月 18 日 ( 金 ) Menton 快晴

今朝も Port de Nice に電話するがやはり今日もいっぱいとの事で諦めて平田夫妻をマン  
トンで待つことにする。

今年の冬の CAVOK5 の越冬先をサントロペにしたが 10 月 15 日から係留になるので帰国  
の日程 2 週間程遅らせて 10 月 18 日にした。航空券の予約変更の手続きをする。幸いに便  
が空いていてスムーズにいった。

お昼にお蕎麦をネギのつけ汁で頂く。

ニース空港から遠くなったのでレンタカーの手配をして夕方着く平田夫妻を迎えに行く  
ことにする。地元のレンタカー屋さんで借りるよりインターネットのレンタカーサイトで  
予約した方が安いのでインターネットで予約する。

夕方 16 時に市内のレンタカー会社に借りに行き、迎えに行こうとしたら平田さんからメ  
ールが入り前便の大幅遅れでフランクフルトからニースの便に間に合わず、次の 22:45 着  
の便になるとの事になったので艇に戻り軽く夕食を取る。

空港まで約 1 時間かかるので 22 時前に空港に向かう。到着も遅れて 24 時過ぎに到着口  
ビーからお二人の懐かしい姿が現れてきてホットする。長旅、プラス遅れにも拘わらず疲  
れた様子もなくお元気なのに安心する。

早速マントンに戻るが途中マントンのインターチェンジを乗り越してイタリア迄行って  
引き返した。イタリアからフランスに入るときは警察の検問があった。

遅い到着になったがシャンパンと生ハムのおつまみで乾杯して積もるお話も半分にして  
夜中 3 時に眠りにつく。

9月19日(土) Menton~Villefranche~Saint-Raulen (20NM)快晴 南西微風

今日も Port de Nice に電話したがいっばいとの事で諦めて St-Laurent du Var に予約する。昨日遅かったので起床は遅くなる。今日出港と決めたのでレンタカーを返すに行くついでに出来立てのフランスパンを買って帰る。朝食にそのフランスパンにブルターニュのバターと蜂蜜をつけて食べたらとっても美味しかった。流石フランスの味だった。

12:30 に 1 週間滞在したマントンを後に舳いを解く。モナコ在中の麻記さんから電話が入り、ヴィオラのマストの修理が終わり本日午後帆走するとの事だったのでヴィオラの停泊している Villefranche のマリーナに寄る。給油用ポンツーンに着けて 9.5 L 給油する。

幸い出港前のヴィオラと Kostia に会うことが出来た。彼も久しぶりの再会を喜んでくれた。月曜日にカンヌに回航して火曜からのカンヌ・クラシック・レガッタに参加するとの事だった。我々もカンヌに移動して観戦をしたいのでカンヌの係留の予約をお願いする。但し彼らも予約待ちの状態だが、彼のもう一隻のヨット Elliot を管理している男がカンヌのマリーナの関係者を良く知っているとの事なので何とかなるだろうとは言ってくれた。

もっとここでゆっくりしたかったが、St.Raulant に着くのが遅くなってしまうので再会を祝して別れる。

17:05 に St.Raulant のマリーナに舳う。ここはニース空港の直ぐ近くで上空に飛行機が飛び交う。結構大きなマリーナだ。

百合子さんの幼馴染の石川さんと御嬢さんがニースに来る事になっていたので、連絡してニース市内で一緒に食事をすることにした。タクシーを頼むが迎えに来たときに既に 14 € にメーターがなっていた。確認すると空港からきたので其処からの料金だと云う事だった。おかしな話だ。

既に石川さんがレストランを取っておいてくれ、そこで落ち合う。白ワインでムール貝、牡蠣、イワシのグリル、ブンヤベースを食べるが新鮮な魚介類で美味しかった。

帰りタクシーが見つからずホテルのフロントで頼むが其処でもなく、白タクならあるということでそれを頼んだ。約倍の料金だった。

9月20日(日) St.Raulant~Villefranche~St.Raulant (12NM)快晴 微風

朝食に味噌汁とお握りを頂く。

11 時前に石川さん母子が来る。11:20 に舳いを解いて 6NM 西の Villefranche 湾に行く。St. Raulant のマリーナはニース空港の直ぐ隣で離発着する飛行機の真下を通る。

お天気も雲一つない快晴でカンツオーネを聞きながらロゼワインを飲みながらのクルージングだった。

13:00 に Villefranche にアンカーを打つ。ここは 2011 年来て数日錨泊したところだ。地中海クルーズの大きな客船と約 100 隻近いヨット、モーターボートが錨泊していた。

陸の景観が素晴らしく、シェルターとしても安心出来る、お気に入りのアンカーレッジ

だ。

早速泳いでから、お昼にポツタルガのスパゲティーとお握りを頂く。

お腹がいっぱいになると皆さんに睡魔が襲ってきてシiestaになった。昨日お邪魔した Kostia のヴィオラは明日の移動に備えて係留してあった。

ラバーボートで上陸して町を見た後、18:10 にアンカーを揚げて St. Raulant に 19:30 に舫う。日没と同時であった。

夕食はマリーナのスタッフに聞いて置いたシーフードの美味しい店に行く。

ムール貝、サーモンのタルト、??リゾットを食べるがフランス風の味付けでロゼワインと共に美味しかった。そしてお値段もリーズナブルで又寄りたいレストランだった。

石川母子はタクシーでホテルに戻る。

9月21日(月) St.Raulant ~ Cannes (12NM) 快晴 微風

今日 14:00 までにカンヌのマリーナに係留できるかどうか Kostia から電話が入ることになっていたので待つことにする。もし駄目ならここに滞在することにした。

サン・ローランの海岸を散歩するがフランスに入るとトップレスで日光浴をしているご婦人が多くなり男性陣にとっては目の保養になる。

お昼は電話を受けてからにしてからとすることにする。14:00 になって確認の電話をしようとする電話がありカンヌのバースが取れたとの事、早速出港することにする。お昼はピザをテイクアウトすることにして買いに行くとそのお店で食事をしていたフランス人夫婦が話しかけてきた。ここのピザは美味しいと称賛してくれた。お店の主人も私の待っている間ロゼワインを出してサービスしてくれた。夫婦はカンヌ在住でご主人は何とエアーフランスの元パイロットだったそう。日本も良くフライトで来ていて良く知っていた。

テーブルに呼ばれて彼らの食べている魚が美味しいという事で一口頂いたりして楽しいひと時を過ごした。とっても気さくな素敵な奥さんだった。

15:00 に舫いを解いて機走でカンヌを目指す。17:10 にカンヌのマリーナに入り VHF で呼ぶと H29 の係留場所を指定されるが広くて探すのに苦労した。Elliot のクルーが CAVOK5 の到着を分かってくれ手招きしてくれ助かる。何と8年前にエーゲ海で今は亡き Gerald に乗せてもらった Elliot の脇に舫うことが出来た。

Costia にヴィオラのクルーと一緒に夕食に招待されカンヌの町のレストランでご馳走になる。私は生蛸にサーモンのグリルを頂くが生蛸は晩夏にも拘わらず新鮮で美味しかった。

ヴィオラのクルーは8人いたがその中には大西洋を6mのヨットで横断するトランザットレースに二回出て、日本にも帆船で来たことのあるメンバー、世界一周レースに2回出て一回は優勝艇に乗ったことのあるメンバー等ベテランセーラーが揃っていた。

メンバーの半分はブルタニューのラローシェルから来た人達だった。

お隣に座ったEvanさんの奥さんのリディさんは日本に1年間滞在したことのある方で大変魅力的な女性で明日のCAVOK5でのレースの観戦に招待する。

我々4人すっかりご馳走になった。

9月22日(火) Cannes 快晴

カンヌでのクラシックレガッタ Les Regates Royales の初戦の日だ。このレガッタは Tradition Classiques と Dragon と2種類の艇種に分かれている。トラディショナルクラスは正にクラシックヨットで100隻以上の艇が出場している。



11:30に海面に出るが風が弱くスタート延期になり1時間程待ってからスタートする。スクナーの大型ヨットから小型のヨットまで参加してヨットの歴史を目の前で見られるような海面だった。

ほとんどの艇がニス塗りの木造艇できれいに磨かれ海面で光り輝いている。

中にはオーストラリアの防衛艇として1987年アメリカンズ・カップに出場した12mクラスのクッカブラ艇も出ていた。1987年このクッカブラは前回米国から勝ち取ったカップのデフェンダーであったがデニスコナー率いるスターアンドストライプに負けた艇だ。

ヴィオラに声援をおくる。スタートしてから風が20ノット近く強くなり100隻以上のクラシックボートが帆走する壮観なレースの観戦を楽しんだ。

ヴィオラは1908年に誕生した美しいクラシックヨットだ。



我々はレースの終わる前に入港してヴィオラの入港を待つて舳取りを取る。ずらりとクラシックボートが並びそれぞれ各係留場所には艇の紹介のプラカードがある。

皆さん4時間を超えるレースで若干お疲れになっていた。

夕食はヴィオラのクルーのマチューさんのワイナリーでヴィオラチームの晩餐会がある。我々も自宅に招待される。彼のトヨタランドクルザーに乗せてもらい彼の家に行く。素晴らしい邸宅でマチューさんのワイナリーで生産したワインを頂きながら美味しいお料理をご馳走になる。Kostia の奥さんの麻記さんもいらして久しぶりに再会する。



ヨットの好きな素晴らしい仲間たちに入れて頂き素晴らしい時を過ごした。  
23時過ぎにお開きになり、Kostiaの車でマリーナまで送ってもらう。  
連日のご招待に感謝する。

9月23日(水) Cannes 快晴 南西強風

未明から風が強くなってきた。朝食にクロワッサンとバケットを買いに行く。フランスのクロワッサンは確かに美味しい。

悦子とちょっと町に出ると魚屋がありそこでタコとエビを仕入れる。

ヴィオラに行くと今日は風が強いのでレース中止になっていた。Kostia と彼のヴィオラのクルーを CAVOK5 に今晚日本食に招待することにした。奥さん達は買い物に、私は郵便局の用事を済ましてお昼にジャンボンバケットを買って帰り、平田さんと二人で昼食をとる。

百合子さんと悦子がエビのボイル、タコのサラダ、五目ずし、稲荷ずしをゲスト 9 名分含めて総勢 13 人分作ってくれた。



彼らは 19 時過ぎにくる。Kostia はヴィオラの製造年と一緒に年の 1908 年のマディーラワインとマチューさんのワイナリーで詰めた VIOLA 名のワインを持って来てくれた。



マディーラワインはとろける甘みとコクがあり絶品であった。皆さんとってもヨットが好きで明るく楽しい人達で大変楽しいひと時を過ごす。最後はラーメンでしめる。Kostiaのお父さんのGeraldにエーゲ海で彼のElliotに乗せてもらった時、悦子の作ったラーメンを食べて一番おいしかったと語っていたようで、Kostiaも楽しみにしていたラーメンだった。狭いコックピットで、13人でワイワイやる。皆さん狭い方が、コミュニケーションが良いと言ってくれ、お話と日本食を楽しんでくれた。

素晴らしい仲間たちとの晚餐だった。百合子さんと悦子が良くやってくれた。奥さん達のお蔭で友人をCAVOK5に招待する事が出来、感謝している。

9月24日(木) Cannes 快晴

Kostiaが車を貸してくれることになり9:15に彼らの泊まって居るSplendid Hotelで待ち合わせて車を借りる。

今日はサントロペまでドライブする。サントロペに着いてから私は今年の冬CAVOK5を此処で越冬させるのでオフィッスで係留料を支払う。お昼にサントロペの港の前に並んでいるレストランの一つでランチコースを楽しむ。百合子さん、悦子は前菜にサーモンのタルト、私はムール貝、メインにそれぞれオラーダ(鯛の一種)のグリル、ステーキ、サーディーン、サーモンのタルタルを食べる。サーモンのタルタルは大変美味しかったようだ。

百合子さんと悦子はロゼワインを楽しんだ。

女性二人は買い物、平田さんと私は船具屋を覗いてから車に戻り昼寝して帰りを待つ。

夕方カンヌに戻り Kostia に電話すると残念なことに今日のレースでマストを折ってしまったとの事だった。

お昼にいっぱい食べたので皆さんお腹が空いていないこともあり、夕食は簡単な食事にするにしようが百合子さんが昨日の残りを上手く使ってスープとピラフを作ってくれ美味しく食べる。悦子は少し体が冷えたということで大事を取り早く寝る。

9月25日(金) Cannes 快晴

朝クロワッサンとブルウオッシュを買ってくる。流石フランス出来立てのクロワッサンは美味しい。

朝食後ヴィオラに昨日のマストが折れた件のお見舞に行くが皆さんしょげることなく次なる対策を練っていて明るかったのでホットする。

Kostia は著名なヨットデザイナーに新しいリグの設計を頼んでいた。来年4月に備える準備を早速していた。そして Kostia もとっても明るくそこには暗さは微塵もなかった。

我々は Kostia に借りた車でモナコのボートショーに行くが何と入場料が1日150€、ばかばかしいので止めてカフェ・ド・パリでランチを食べてモナコを後にする。次に香水の町グラスに行く。フラゴナールの香水の店とブティックの店で奥さん方は買い物を楽しむ。

20時過ぎにマリーナに戻り、冷やし中華を頂く。

コート・ダジュールを楽しんだ1日だった。

9月26日(土) Cannes 快晴

遅い朝食後皆でヴィオラを訪問する。外景だけでなく中も磨かれたニス塗りの木工と革張りの椅子で素晴らしいクラシックヨットだ。Viola の建造月日1908年から2008年までの100年の歴史のアルバムを Kostia から頂く。



ヴィオラを後にしてカンヌ映画祭の会場を見学してから奥さん方は町にショッピング、我々は留守番をする。お昼に買って来たハンバーガーを平田さんと食べた後、私はカンヌの海岸に泳ぎに行く。砂浜の海岸で賑わっている。

ゆっくりした一日を過ごす。

奥さん方は夕方マグロのブロックを仕入れて帰って来た。夕食は野菜スープとマグロの漬け丼を頂く。

イタリアではマグロは7月以降禁漁で、暫く食べられなかったので久しぶりのマグロを美味しく頂いた。

食後隣に係留してある Elliot のクルー Jean Luc が飲みに来て彼の生い立ちを聞いたり、情報を聞いたり過ごす。

9月27日(日) Cannes ~ Monaco (25NM) 晴れ 東5 ~ 8ノット

今朝 Port de Nice の予約を再度取ろうと思ったが相変わらずいっぱい取れず。

Kostia の艇 Elliot がモナコの Fontvieille がホームベースで Elliot がここカンヌに居る間空いているので使ってくれと云うことで、Elliot を任されている Jean Luc にマリーナに連絡してもらい今日はモナコに移動することにした。

カンヌのマリーナには6泊したが、このシーズンにしては艇泊料が54€とリーズナブルで助かった。そして借りていた車を返す。

すっかり Kostia はじめヴィオラのクルー、そして Elliot の Luc には大変お世話になった。  
お蔭で 7 日間のカンヌを充実して楽しめた。

12:00 に舳いを解き、クラシックボートが行き来している海面を暫く機走する。

途中から片のぼりの風になり 4 ノット前後の速度だったがセーリングを久しぶりに楽しむ。

17:10 にモナコ Fontivelle のマリーナに舳う。ここは 2011 年 Kostia のお父さん Gerald に Elliot を案内してもらったところだ。

一方が高い岩壁に囲まれ、その上にはモナコ海洋博物館が建っている静かなマリーナだ。

シャワーを浴びた後、夕食に生ハム、オリーブ、ピクルス、野菜ステーキで一杯飲んだ後鶏鍋を頂く。野菜盛りだくさんでスープが美味しくしっかりと平らげた。

9 月 28 日 ( 月 ) Monaco ~ Cannes (25NM) 晴れ後曇り南西 ~ 南 5~10 ノット

明日から暫く天気が悪くなる予報なので再度カンヌに戻ることにした。Elliot のバースを借りているので Elliot が 10 月 1 日にここに戻って来てバースの確保が出来なくなると困るので悪天になる前にカンヌに戻ることにした。そしてカンヌのマリーナは 10 月からは係留料が 1 日 27€ になる。モナコでは 10 月になっても 80€ の係留料だ。

Jean luc にカンヌの予約を取ってもらい 11:50 に舳いを解く。生憎と当初向かいの風だったがクローズホールドのセーリングをタックしながら楽しんだ。モナコ、ニース、カンヌの上空は旅客輸送用ヘリコプターが沢山行き交っていた。

17:20 に Elliot の隣に舳う。夕方から風が強くなって横風の中槍着けは結構苦労するが Elliot の Jean Luc がバウから舳いをとってくれバウが振れず助かる。

夕食にお世話になった Jean Luc を招いて明日離船する平田夫妻のお別れ会をする。



魚介類のアヒージョでスタートしてキノコとインゲンのソテーが付き合わせのビーフステーキとリゾットを頂く。

彼は Viola の赤ワインを持って来てくれたがマチューのワイナリーのコクのある味わいのあるワインだった。

9月29日(火) Cannes 曇り 強風

今日は平田夫妻が下船してニース空港の近くのホテルに前泊して明日早朝便で帰国する日だ。

15時にタクシーを頼んでおいたので朝食後ゆっくり荷造りをしてお昼にキツネうどんを頂く。2週間一緒したが平田さんは80歳のお年にも拘わらず元気に楽しんで頂いた。奥さんの百合子さんは悦子と一緒に丁々発止でお料理を作ってくれたり、買い物を楽しんだり大変楽しく遊んで頂いた。

Jean Luc も見送りをしてくれサヨナラをする。

その後私は床屋に行きさっぱりする。

夕方に Viola のクルーの Fabien と Bruno がサントロペに行って Viola のマストの今後について調べて帰って来た。

明日 Viola を上架してトラックで地中海から大西洋側のラローシェルに運ぶので手伝う

約束をした。

夕食は久しぶりに悦子と二人でネギの土手焼きで日本酒を楽しんだ後鰻丼を頂く。  
静かな夜だった。

9月30日(水) Cannes 晴れ 強風

朝いつもの様にパン屋にフランスパンのバケットを買ってくる。エシュレーのバターで食べると、とても美味しい。フランスならではの朝のパンの味かもしれない。

午前中にマリナー内のコインランドリーでタオルケットやシーツの洗濯をする。お昼にラーメンを食べてから Viola が陸揚げしてトラックでラローシェルまで行くので手伝う。

風が強く一面白波だらけの天気だ。天気予報では Gale Warning が出ていた。その強風の中、上架クレーンで Viola を揚げるので結構大変かなと思っていたがそれ程苦労することなく揚げる。Fabien と Bruno は流石プロだった。

すべて終わってトラックを送り出したのが 17 時過ぎになっていた。Fabien と Bruno はこれからサントロペに行って明日ラローシェルに帰ることだったのでここでお別れをした。

本当に彼らは落ち着いて、笑いを絶やさず、チームワークも良く素敵なシーマンであり、仲間であった。

10月1日(木) Cannes 曇り

いつもの通りフランスパンを朝買いに行く。

明日の予報が雨だということで Jean Luc は Elliot 号で今朝ホームポートのモナコのマリナー Fontivelle に戻る。Jean Luc には手助けを色々してもらった。お礼に日本茶をプレゼントする。10日ほど隣に一緒に居たので寂しくなる。

我々は電車とバスを乗り継いで国立ピカソ美術館のあるヴァロリス(Vallauris)に行く。ヴァロリスは1948年から1955年の間ピカソが住んだところで、彼が新しい対象として陶芸に取り組んだところである。

町の広場にはピカソ作のブロンズ像「羊を抱く男」が建ち、国立ピカソ美術館の中にある礼拝堂に「戦争と平和」の壁画の作品が部屋全体に描かれていたが感動的な作品であった。

お昼に広場の前のレストランでランチメニューのコースをロゼで食べるが濃いクリームスープにネギを薬味的に入れた前菜、そしてビーフのグリルが出るがスープはとても美味しかったがビーフは少し焼き過ぎだった。

悦子の方はカモ肉のグリルを食べたがこちらは柔らかく美味しかった。

隣のテーブルの老夫婦が話しかけてくれ、この店は評判が良いと教えてくれる。彼らはパリ在中でこの近辺のセカンドハウスに休暇で来ているとの事だった。日本にも昔来たことがあるそうだ。

帰りに陶芸の町と云うので歩いてみたがそれ程お店もなく特に見る物もなかった。

カンヌに戻ってカリフォルニアで買い物をして帰る。悦子は商店街で母親のお土産にポシェットを買っていた。

私はマリーナのシャワーを浴びに悦子は艇内のシャワーを浴びる。

夕食はパプリカのオードブル、海草サラダ、春雨スープと五目寿司を頂く。夜になると結構冷えてくるので少しだけヒーターを入れた。Gerald は Elliot に乗せてもらった時、私は艇を買う前だったので色々相談したが、その時クーラーはいらぬがヒーターはあったら良いよと教えてくれた意味が良く分かった。

夜半には雨が降り始めてきた。

### 10月2日(金) Cannes 雨

朝から本降りの雨だ。今朝はフランスパンを買いに行くのは止めて昨日の残りの五目寿司を味噌汁で頂く。

予定よりこちらの滞在が伸びたので、帰国後予定していた病院等の予約の変更が必要なので手続きをする。

雨だと外に出たくないで艇内でゴロゴロ過ごす。それでもお昼にはお腹が空いてきてラーメンをビールで頂く。

食後昼寝を楽しむ。写真の整理をしてから私は買い物に出かける。ついでにカフェに入りコーヒーを飲みながら Wifi で調べごとをする。勿論艇内でも自分の契約 Wifi が使えるのだが使いたい放題でないで外で Wifi が使えるときは外を使う。マリーナも Wifi を飛ばしているが弱く使い物にならない。良くあるケースだ。

夕食は魚か肉か任されていたので両方見るがお肉に軍配が上がり牛ヒレを買う。やはりヒレ肉は高く他の部位に比べて倍近くする。因みにキロ 48€ だった。500g だけ買う。

今日は殆ど運動しなかったがお腹は減る。

夕方西の空が赤くなったが雨は降り続く。一日中雨だった。一日中の雨は今年地中海にいて初めての経験だった。

夕食に野菜サラダ、付け合せにマッシュルームとパプリカのソテーのヒレステーキを赤ワインで頂く。肉が柔らかくかつジューシーな久しぶりに美味しいヒレをご馳走になる。

お食後にリンゴ、洋ナシ、プラムをコニャック風味で甘く煮たデザートを頂く。

毎食事が楽しみだ。

### 10月3日(土) Cannes 曇り後雨

昨日の雨も止んだので今日はパンを買いに行く。

何とかニース港に行きたくこの3週間以上予約を入れようとするが取れなかった。昨日もマリーナのオフィスで頼んでもらうが今日 11時に再度連絡してくれとの事だった。ここと同じ系列の Port de Nice なので何とかと思っているが取れない。確かに Port de Nice は外来艇のバースは少なく、又そこを工事しているとの事で更に厳しい現状の様だ。

今日取れなかったら諦めて Saint-Ropez の近くの Coglin に行こうと思って 11 時にオフィスによるとなんと月曜日から取れた。粘り勝ちという所か。ニースは Kostia の住んでいるモナコに近いので 3 泊程滞在する予定だ。

その後港を見下ろすように建って居るカンヌ城に登る。博物館があり面白いことにアフリカ、アメリカ、アジア、オセアニアの民族遺産が展示されていて世界文化の歴史が見える。中庭には高さ 22 m の見晴らし塔があり上からのカンヌ港や町の景色が一望に見えた。

お昼にチャーハンを頂いてウトウトするが、又雨が降り出したので乾かしていたもを取り込む。

幸い Wifi が入ったので来年の計画含めて調べごとをして過ごす。

夕食は生ハムとパブリカのオードブルでロゼワイン、海草入りサラダそしてメインにポロねぎのグラタンを付き合わせにビーフステーキを頂く。昨晚と同じステーキになったが美味しくいくらでも食べられる感じであった。

食後雷鳴と共に豪雨になり縛っていなかったドジャーが閉まってキャノピーに霰交じりの豪雨が吹き込む。

霰は 1 cm 近くあった。

10月4日(日) Cannes 晴れ

朝起きて天窓から空を見ると青空だ。久しぶりの青空嬉しくなる。

昨晚の雨で、ニース近郊で 13 人の死者が出たそうだ。

朝食後早速昨晚の豪雨で濡れたマットやラバーボートの中に入れて置いて濡れたジェネカーを干す。

カンヌは出入りの艇が多いので周りの艇が入れ替わる。我々はもう 2 週間の滞在になる。

お昼にソーメンをビールで頂いてウトウトした後ビーチに泳ぎに行くが昨晚の影響か水が綺麗でなかったので日光浴だけにして戻る。コート・ダジュールだけあって未だトップレスで日光浴をしている。

日曜日なのでお土産物屋さんとレストラン以外は殆ど休みだ。ビールとワインが必要だったので何とか開いている小さなスーパーを見つけて買う。

夕食は生ハムとサラミ、野菜サラダ、クリームスープ、イワシのグリルをロゼで頂く。毎日 3 食の食事が美味しい。

昨晚とうって変わった静かな夜になった。

10月5日(月) Cannes~ Nice (17NM) 晴れ

やっと予約出来たニースに向かう。09:30 に舳を解き北風の中セーリングを楽しむ。当初 5 ノット前後の速度で走ったが後半風が弱くなり又向かい風の南東に変わる。短い距離なのでノンビリ帆走して 14:40 に懐かしいニースのマリーナに係留する。

確かにビジターバースには 6, 7 隻位しか係留スペースは無かった。

麻記さんに電話するとモナコから直ぐ迎えに来てくれるとの事だった。

彼女に海岸通りの美しい景色を見ながら自宅まで連れていってもらう。2011年以来の5年ぶりにお邪魔する。

Kostiaさんは風邪気味にも拘わらず歓迎してくれた。又長男のユリス君次女のあやめちゃんにも久しぶりになるがこの4年間で大きくなっていった。

シャンパンで乾杯してから野菜サラダ、クスクスサラダ、トルティーヤ、鶏のローストをご馳走になる。メキシコ人のお手伝いさんなのでメキシコ風料理のトルティーヤが食べられた。こちらの鶏肉は美味しい。

KostiaとはViolaやElliotの話、CAVOKの話等々ヨットの話を楽しむ。

デザートを頂いた後、車を借りてニース港に戻る。

10月6日(火) Nice 曇り

今朝もバケットを買ってくる。

今日はニースの山岳方面をドライブすることにした。目的地を此处から70km内陸にアントルヴォーを目指す。ここは中世の要塞都市があるところだ。ヴォール川沿いにドライブしていくと山間が紅葉してきて美しい。アントルヴォーの町に入ると小高い丘の上に中世の城が気高く立っていた。



町で昼食を済ましてから、ヴォール川に架かる橋を渡り城砦都市に入る。小道を挟み建物が立ち並んでいる。お城は其処から急な坂の石畳を登るとヴォール川と山麓の色彩豊か

森、そして城塞都市の瓦屋根の色が見事に調和され素晴らしい景観であった。

ドライブの後スーパーマーケットで買い物をして戻る。

ニース港は廻りが中世の建物で囲まれ風情のあるところで好きだ。そして海岸は紺碧海岸即ち Cote d'Azur と名前がつくほど綺麗な海の色だ。

生ハムとプチトマトで喉をビールで潤した後、野菜サラダ、マッシュルームのソテー、豚のガーリック醤油味とご飯を赤ワインで頂く。

10月7日(水) Nice 晴れ

今日は Kostia にモナコヨットクラブでの昼食の招待を受けている。

借りていた車でモナコの自宅まで行く。其処から麻記さんのドライブでモナコヨットクラブに行く。名門クラブでモナコ大公アルベール 2 世もメンバーになっている。クラブハウスは大型客船の形をした美しい建物でクラブハウス内は豪華でした。

最上階 4 階にあるレストランからはマリーナと海が一望できビュッフェ形式のお昼をご馳走になる。Kostia の 12 歳になる長男がジュニアヨットのスクールがあり OP ディンギーで練習していた。

麻記さんに艇まで送ってもらう。

名門ヨットクラブを堪能させて頂いた一日だった。

10月8日(木) Nice~Cogolin (42NM) 晴れ 東微風

もう少しニースに居たかったが 8 日から Cogolin の予約をしてあるので出港する。

マリーナのオフィスにトイレ、シャワールームの IC カードを返却して帰りにバケットを買って艇に戻り 0905 に舫いを解く。

朝食は出航した後頂く。夏時間のせいで日の出が今朝 07:38 なのでどうしても起きるのが遅くなるので時間節約で出港後の朝食をとることが多くなる。

3 時間程 5 ノット前後のスピードでセーリングを楽しめたがその後風が落ちて機走する。途中で寄ったことのあるのサン・ローラン、カンヌのマリーナの沖合を通過して 17:05 に Marina de Cogolin のポンツーンに舫う。入港前上空ではフランス空軍がフォーメーションでアクロバット飛行の訓練をしていたが自由に飛び回れる空も楽しそうだった。

15 日に Saint-Tropez に移るまでここで係留することになっている。10 月に入ると係留料が一気に安くなりここは 1 日 27€ で助かる。約ハイシーズンの三分の一だ。

オフィスが遠く自転車で手続きをしに行く。

夕食は魚介類のアヒージョ、野菜サラダ、ラタトゥユ、キノコの付き合わせのヒレステーキを当初ロゼワイン、そして赤ワインで頂く。

セーリングのした日の夕食は一層おいしい。

10月9日(金) Cogolin 雨後曇り

午前中雷と共に雨になる。お昼にチャーハンとタイ風カレーを頂く。

午後雷雲も通過したので今冬の修理を要する箇所を書き出してここにある大きな整備工場に行くが生憎と休みだった。VHF のトランシーバーの液晶が不具合になったのでこれはエレクトリックマリンショップに修理を依頼する。

明日モナコの麻記さん宅を訪問するのでここからの交通手段を調べる為、自転車でサントロペのインフォメーション迄行く。片道約 1 時間かかった。

すっかりいい運動で汗をかいたので風を引かないように直ぐ暖かいシャワーを浴びる。

夕食に鶏鍋を頂く。陽が暮れると長ズボンとフリースが必要になる気温になったので鍋が美味しくなった。

10 月 10 日 ( 土 ) Cogolin ( Monaco ) 快晴

朝食後ロープの塩出しをする。帰国するまで時間があるので少しずつ越冬準備作業をすることにしている。

昼食に鶏鍋のスープを使ったおじやを頂く。

13:40 発のバスでサンラフェエルまで 1 時間ちょっと掛かって行く。海岸線の景色が綺麗で海水浴場は未だ賑わっていた。

サンラフェエル駅から SNCF に乗って、ニース駅で乗り換えてモナコ駅まで行く。モナコ駅に Kostia さんが迎えに来てくれていた。

今晚は彼の自宅でインド音楽のホームコンサートがある。Shujaat Khan さんのシタールと Nihar Mehta さんのパーカッションで伝統的インド音楽を演奏してくれた。

Shujaat さんは世界中を演奏して廻っていて日本にも来たことがあり日本が大好きとの事だった。

Kostia さんのお友達も沢山来ていて、演奏後は大変賑やかなパーティーになった。

素晴らしいお友達を Kostia さんは沢山お持ちだ。

シャンパン、ワインと沢山の種類のお食事を頂く。どれもとても美味しかった。デザートにプロバンス名物のカイソンを始めフランスならではのスイーツが並んだ。

御嬢さんのあやめちゃんもお手伝いしてくれた。長男のユリス君は 12 歳だがジュニアでヨットをやっているのヨットの戦術についてお話をした。

24 時過ぎのお開きになり、Kostia さんの車を借りて約 90 km 先のサントロペに帰る。

着いたのが夜中 2 時過ぎになっていた。

10 月 11 日 ( 日 ) Cogolin 晴れ

昨晚遅かったのでゆっくり起きる。車でサントロペ迄朝食用パンを買いに行く。

お昼にラーメンを食べた後、デッキで日差しを浴びながら昼寝をする。

運動不足になってはいけないので近くの海水浴場に夕方泳ぎに行くが途中車が込んでいたので適当な海水浴場に車を止めて行くが何とそこはナチュラルビーチで皆さんスッポン

ポンだった。こちらもナチュラルになり泳ぐ。未だ水は冷たくなく十分泳げた。

帰ってからシャワーを浴びて夕暮れを赤ワインとアピタイザーで楽しむ。

夕食は野菜サラダ、ラクレットチーズをジャガイモで頂く。ラクレットチーズが美味しい。

10月12日(月) Cogolin 雨

午前中に Marina de Cogolin にある Monaco Marine に艇の整備について依頼に行く。

マネジャーの Sebastien が対応をしてくれ、今年の部分、来年の部分と整備の調整をする。

ジブセール修理についてもセールメーカーに連絡して明日午前中に来てもらう事にした。

整備の調整が出来たのでサントロペのラノンシアード美術館にシニャックのサントロペの素朴な漁村をコート・ダジュールの溢れる陽光とのコントラストで書いた絵を見に行く。「サントロペの港」の絵は私の好きな作品だったので暫く佇んで眺めた。



サントロペもこの季節になるとバーゲンが始まっていて悦子と私は衣類の買い物をする。お昼に港の前のレストランでムール貝のワイン蒸しとスパゲッティ・ボンゴレーを白ワインで食べる。ムール貝は鍋一杯来るが美味しい。帰りに大きなスーパーに寄って食材を買う。Kostia から車を借りているので助かる。

雨が降り続くのでお城に行くのは止めて艇に戻る。

夕食は沖縄料理のニンジンしりしり、ナスとひき肉の味噌炒め、ひき肉とこんにゃくの佃煮、あゆ屋の鮎巻をご飯で頂く。日本酒が無いのでロゼを飲む。

10月13日(火) Cogolin 曇り

雨が止んでホッとす。11時前にコインランドリーで洗濯をする。11時に頼んでおいたセールメーカーの Midi-Voiles 社の社長がセールを見に来る。セールのリーチとラフの UV 加工の部分の修理を頼む。出来上がりは来年の春になる。同時にドジャーが古くなったので見積もりを依頼する。

自転車やジェネカーを格納する。悦子は艇内の清掃をした。

お昼にひき肉のラップ巻を頂いた後、スクリュウの腐食防止用のジंकが取れてたので取り付けの手配をしに、マリーナにある修理工場 Monaco Marine に行く。

15日にサントロペに移動する予定だったが15日が強風予報なので16日に移動することにした。色々やることがあり忙しい。と云っても午後泳ぎに行く。

夕食は野菜サラダ、ポテトの付け合せのカモのグリル、牛肉とこんにゃくの佃煮をご飯で頂く。美味しいカモ肉で赤ワインを美味しく飲んだ。

10月14日(月) Cogolin 晴れ

朝天窓から空を見ると青空だ。気持ち良い。

午前中に床のマットを石鹸洗する。Monaco Marina からジंकの取り付けの見積もりが来たが上架リフトの使用料だけで 444€だった。プロペラのジंक一つの取り付けだけで 500€以上は高すぎるので自分でつけられるか潜って調べる。素潜りではジंकの取り付けは無理だと判断した。早速 Monaco Marina の担当者のセバスチャンにその話をしたところダイバーを紹介してくれたので電話で確認して明朝 9 時にマリーナオフィスで待ち合わせることにした。

又 Midi- Voiles 社からセールとドジャーの見積もりが来たがセールはまあまあとしてもドジャーの方が少し高いので考えてしまう。

悦子は中の掃除をしてくれる。

お昼にカモ蕎麦を頂く。昨日の残りのカモを上手く使っている。

15日にサントロペに移動する予定だが明日15日は強風予報なので16日に移動することにして手配する。

15時過ぎにいつもの海岸に泳ぎに行く。ナチュラルビーチも慣れて違和感が無くなってきた。丸裸で泳ぐのも解放感があって良い。少し水は冷たいが寒いほどでなく気持ち良い。

夕方悦子と近くの巨大なスーパーマーケットにシーツを買いに行く。

青空の中に秋雲が漂い素敵な季節だ。

夕食に今日スーパーで買ったフォアグラのパテをラスクにぬってロゼワインで楽しむが

このパテは非常に美味しくストップするのが中々出来なかった。その後、トマトのファルシー、そして鶏肉のシチューを頂くが素晴らしいスープの味だった。

10月15日(木) Cogolin 快晴 北西強風

素晴らしい青空だが風が強い。北風で気温も下がっているが快晴は気持ち良い。

今日も艇内掃除、帰国の準備で忙し。私は9時にダイバーとプロペラのジंक取り付けの件で話す。サントロペに移動後ジंकを取りつけかけたがこのダイバーはサントロペには行けないという事でサントロペのダイバーに頼むことにした。

残りの洗濯もコインランドリーで済ます。

お昼にチャーハンを頂いた後、いつもの様に海水浴をする。気温は21位だが太陽を裸で浴びていると汗をかく。

単純な優雅な一日が至福だ。

夕食に生ハムでビールを飲んだ後、玉ねぎと胡瓜とイワシの和え物。胡瓜とワカメの酢味噌和え、塩茹でジャガイモの付け合せで鶏の肉の照り焼きをロゼで頂く。

いつもの様に音楽を聞きながら夜長を楽しんで寢床に就く。

10月16日(金) Cogolin ~ Saint-Tropez (2NM) 快晴 微風

一夜明け風も治まり快晴の朝を迎える。

Cogolinでの仕事を終わらせて10:10に舳いを解きSaint-Tropezに11:00舳う。

ここに半年冬季舳うので舳いにスプリングを入れて万端の舳いをする。この地方は冬季強風が吹くので舳いを強化するようアドバイスを受けていた。

ジंकの取り付けをお願いしてあったがダイバーが来ないので心配する。

お昼にスパゲティーポモドーロを頂く。

一度は困難と思ったジंकの取り付けを自分で取り付けようかと思ったが、残っているビスが海水の中で取れないかと思ったりして躊躇する。

明日から土、日曜日になるので今日中に何とかしたいと思いオフィスに行き別のダイバーを頼む。

夕方ダイバーが来るが何と作業に250€との事、Cogolinでお願いした時は120€、そして蛇足だがギリシャで頼んだ時は50€、この違いに啞然とするが、プロペラの腐食が心配なので頼む。足元を完全にみられた。ジंकのサイズが合わずビス1本だけの止めになったが来春までの係留用なので問題はない。これで安心してCAVOK5を越冬させて帰国できる。

夕食はフォアグラのパテの後、昨晚の残り物と蟹玉を頂く。明日一晩で帰国するのでほぼ冷蔵庫を空にした。

10月17日(土) Saint Tropez 快晴

朝食にお握りと味噌汁を頂く。毎日のヨーグルトもリンゴのコムポートと一緒に頂く。

昨日でほぼ越冬準備が終わった。

Cogolin のマリーナに昨日から車を置きっぱなしだったのでバスに乗って取りに行く。

Cogolin のマリーナは駐車代が無料だったので助かった。サントロペは一日 52€取られる。

バーでビールを飲むと 6€, シャワー 2€, ピцца 20€何でもかんでも物価高な所だ。

お昼にハムと野菜のロール巻をビールで頂いた後日課の海水浴に車で行く。

観光客の中には厚着をしている人が多いが、日向に居ると裸で汗がにじむ位の暑さだ。

ナチュラルビーチには日光浴をしている人が未だ結構いる。

帰ってから、Kostia に教えてもらった、近くの Gassin の村に行く。小高い丘の上にありサントロペ湾を一望できる小さな綺麗な村だった。

夕方 CAVOK5 でロゼとハム、ポテトチップで 1 杯やってからウトウトしてしまう。

目が覚めてマリーナの脇にあるイタリアンレストランでシーフードサラダとパルマピッツァを食べるが味は美味しくなかった。

10月18日(日) Saint Tropez~Vienna 雨

今日は帰国の日、悦子はニース、イスタンブール経由で成田へ。私は半年ヨーロッパに居たのでニース、ブルッセル経由でウイーンへ。ウイーンで一泊してからの帰国になる。

朝から生憎の雨だ。最後のクローズをする。海の上に浮かべての帰国は色々と気になり結構あれこれ時間を使う。Kostia に借りていた車も洗車する。最後にマリーナのオフィスに行って、電源のコネクターの返却と CAVOK5 の鍵を渡す。

12 時過ぎに荷物を積み込み出発する。ここからニース空港までは 110 km 位ある。交通の便が悪いので車があって助かる。車はニース空港で麻記さんと待ち合わせてお返しすることになっている。最後まで大変お世話になり感謝のしようがないほどだ。

悦子とそれぞれゲートが分かれ帰国に向かう。

何事もなく今年のクルージングも合わることが出来て感謝している。